

た しろ あや

田代文個展



開催日時 6月3日—6月30日 11:00—15:00
開催場所 学びの里TASSHO
※水曜日はお休みです

プロフィール

1968年 長野県生まれ
大学で美術・日本画専攻 日本美術院会友:洞谷亜里佐氏に師事
就職後も制作活動は継続 結婚を機に寒河江市田代へ

山形県美展へは平成14年初出品入選。以後現在に至るまで連続17回入選。
県美展を中心に絵画展や、市報・市主催イベントへのカット・イラスト提供など制作出品。
子どもたちへの楽しい美術教育を熟考中。

山形県美術連盟会員 寒河江美術研究会員

田代の自然の中で、伸び伸びと日々成長する子どもたちを題材に作品を制作し続けること18年。今回「学びの里TASSHO」で展示させて頂く作品を選びながら、小さくて可愛かったあの頃や、その作品を描いている時の家族のエピソードが、昨日の事のように思い出されました。作品一枚一枚が、子どもたちの成長記録であり、自分自身の成長の証となっている事に気がつきました。そして、たくさんの作品を前に、家族の協力があってこそ、この作品がある事を改めて思いました。

田代の皆様をはじめ、たくさんの皆様に目にして頂ける機会を頂き、大変嬉しく感謝の気持ちでいっぱいです。と同時に、身の引き締まる思いです。今後も自分の満足のいく作品制作に向かって努力していきたいと思います。ありがとうございました。

作品紹介

※F30～80号・・・作品の大きさ H15～30・・・制作年

1 「お姉(ねえ)ちゃん まだかな」 F30号 H15

絃太2歳 保育所から帰ってくる姉が乗るスクールバスを、庭の垣根からずっと待つ後ろ姿が、たまらなく可愛かったな。

2 「やさしい雨(あめ)」 F50号 H17

絃太4歳 庭の池の周りで遊ぶのが大好き。時には池に落ちることもしばしば。お気に入りの岩の上でポーズをとりました。

3 「あたたかな時間(とき)」 F50号 H19

香穂里1歳 膝の中で絵本をながめるのが大好き。そのページが読み終わらないうちに、ページをどんどんめくってしまいます。

4 「夕暮(ゆうぐ)れ」 F80号 H20

絃太7歳 香穂里2歳 玄関先に腰掛けて、摘んできた花や草で二人仲良く遊んでいました。フサスグリを食べて、酸っぱかったね。

5 「新(あたらしい)ページ」 F50号 H22

琴見 中学1年 スクールバスが来るまでの待ち時間は、陵西中の図書室。本が好きすぎる娘です。

6 「小さな冒険(ぼうけん)」 F50号 H23

絃太10歳 新しく買ってもらった青いピカピカの自転車。一人でどこにでも出かけていけるような気がしていました。

7 「半夏生(はんげしょう)」 F50号 H25

香穂里7歳 半夏生の日には必ず一輪の花を咲かせるという「紅花」の命の不思議。触ってみたらトゲが痛かったね。

8 「夢(ゆめ)への階段(かいだん)」 F50号 H27

琴見高校3年 山形文翔館の正面玄関に入ってすぐの階段で。自分の夢に向かって一步踏み出そうとしていた、娘へのエールの作品です。

9 「向日葵(ひまわり)の散歩(さんぽ)道(みち)」 F50号 H28

香穂里10歳 近所の名犬「ハッピー」。いっしょに散歩したかったなという思いを込めてハッピーは見守ってくれているかな。

10 「仲良(なかよし)」 F50号 H29

香穂里11歳 香穂里が「トマト」の絵を描く所を私が描くという場面。近所の猫がやってきて、ずっと香穂里の周りでうろうろしていたね。

11 「懐(なつ)かしい時間(じかん)」 F80号 H30

香穂里3才 絃太8歳 琴見12歳 3人が仲良くいっしょに図鑑で調べ物。10年前に描こうと思っていた題材。こんな時もあったな・・・まさに懐かしい時間です。

日本画ってこんな絵画

日本画はとても古い日本古来の画材を使用する絵画です。絵画をグループで分ける時に、日本画と洋画に分けませんが、水彩画・版画・アクリル画・油絵などほとんどが洋画です。日本画の絵の具は、細かい岩・砂、または絵の具を粉にしたようなものです。この絵の具の素を、水で溶き、膠(にかわ)という接着剤のようなもので、紙にくっつけるように塗ります。見るとキラキラして、ざらざらしている感じがわかります。繊細なので、触ると絵の具がはがれ落ちてしまうことがあります。色を混ぜて違う色を作ることは難しく、紙の上に重ねて塗りながら、重なった色の見え方で、自分の色を作っていきます。